

た中で非結核性抗酸菌症がどのくらい含まれているか明らかにしていく必要があると思われる。

同定法ではアキュプロープ法が最も多く使われており44%を占めていた。次いで多いのはナイアシンテストであり、34%に行われていた。今回DDHマイコバクテリアが使用されていた例が599例(27・6%)と多く、そのうち61%は結核菌であった。DDHマイ

コバクテリアが他の方法と同時にに行われていることが伺われた。

全国的なサーベイランスが行われていないので、この結果が全国の耐性菌の頻度を示しているかどうかは不明であるが、同時期に届け出られた菌陽性例は全国で1万214例で、そのうち1644例(16・1%)がこの調査の対象となった。日常的に感受性試験の結果と臨床的な薬剤に対する反応が異なることを

散見する。薬剤感受性試験の精度管理は難しいと言われているが、臨床医は薬剤感受性試験に基づいて治療方法を決定するのであるから、精度の高い試験結果が得られるように日常的に精度管理を行い、また全国的レベルで耐性菌サーベイランスができるような組織作りが望まれる。

IUATLD（国際結核肺疾患予防連合） ヨーロッパ地区会議に参加して

結核研究所副所長 石川信克

平成12年4月12日、15日、ハンガリーのブタペストで開かれたIUATLDヨーロッパ地区会議に参加しました。この会議は、ヨーロッパで開かれた第1回のIUATLDの学会であったこと、冷戦終結後ヨーロッパがまとまろうとする気運の中、東西ヨーロッパの中心であるハンガリーで開かれたこと、ハンガリー呼吸器学会（第51回）との合同で行な

われたこと、またWHO、欧州呼吸器学会、ハンガリー保健省の後援で行われたことなど、様々な意義と期待が含まれていました。また、IUATLDの理事会や教育委員会、ストツブTBなどの重要な会議も併せて開催されたため、日本からの出席も要請されました。



ドナウ川両岸に建ち並ぶ壮麗な建造物

会議の主な課題は結核・喘息・たばこの三つで、結核分野では、東ヨーロッパの結核問題に重点が置かれ、特にロシアの結核問題、それに付随して「刑務所の結核」が大きな焦

点でした。

増悪している旧ソ連・東欧の結核問題

多くの旧ソ連・東欧諸国では結核の新発生が増えています。その要因として、①社会経済的な落ち込みによる失業率増加、薬の不足、アルコールや薬物依存並びに犯罪の増加、②対策の弱さ、喀痰検査でなくX線優先、入院安静中心、一般医療に組み込まれていない等、旧態然とした方策が採られていること、③旧ソ連諸国での犯罪の増加と刑務所での結核増加、特に刑務所が多剤耐性結核患者の「製造工場」化していること、④東欧諸国全体における多剤耐性結核患者の増加が挙げられます。特に最大の人口（一億五千万人）を持つロシアで結核の罹患率、死亡率が増えていることはヨーロッパ全体の脅威です。罹患率は現在85で死亡率は20と、10年前の3倍近くになっています。治療率は50%程度です。また人間ばかりでなく牛の結核も増えているそうです。

うれしいことですが、まだ先は長い感じがします。西欧諸国の結核は、移民、特に地球的国際化による途上国からの人口流入と旧ソ連諸国からの流入に大きな影響を受けているため、自国のみの対策では間に合わなくなっています。これは、今後の日本の結核対策でもますます重要な課題となると思われます。喘息と喫煙の問題

「喘息」では、最近なぜ先進国でアトピーが増えているかの議論がされました。環境（家屋の材料など）を含む感作因子に加え、それらに対する人間の過敏な反応の増加、食物の変化（新鮮な野菜や果物、生肉の減少）や土から離れた生活習慣、ペット、解熱剤の使用などの促進因子が取り上げられました。シユタイナー学校の子供や兄弟の多い子供にアトピーが少ないなどの、興味ある観察もありました。

「喫煙」では、たばこは個人の自由な意思に基づき吸っているとは言えず、実のところ、たばこに含まれる依存性物質により、そう仕向けられ、騙されていること、なぜなら喫煙者の6〜8割が禁煙したいと願っているのに止められないという激しい議論がなされました。

技術的課題から、より政治的課題になった結核

ストツプTBとしては、アムステルダムでの世界閣僚会議以降3週間目であったため、特に新しいことはありませんでしたが、WHOの責任者、古知新先生は、「今や結核は技術から政治的な課題となった。すなわち、DOTSをいかに広く強力に進めてゆくか、維持してゆくか、政治的、予算的課題がますます重要になった」と述べました。またヨーロッパの医師への挑戦として、①胸部専門医たちにいかに結核への興味を持ってもらうか、②結核・胸部疾患をいかに技術的問題から政治的問題にしていくか、③保健セクター改革（保健分野の合理化）の流れの中で、結核を重要な公衆衛生の課題にできるかを呼びかけられました。

ブタとペストという二つの町からなるこの美しい都市の中心にはドナウ川が流れ、それを見下ろす丘には桜の花も咲いていました。この中欧の街の一隅で、冷戦後のヨーロッパ諸国が抱える大きな結核問題やその取り組みから多くのことを学ぶことが出来ました。